

地域社会との関わり

「良き企業市民」として、地域の人々との交流を通じて互いに信頼関係を築くとともに、事業活動を通じて社会と文化の発展に寄与していきます

災害復旧

◎ 関西国際空港連絡橋の道路復旧工事に尽力

2018年9月4日、関西を直撃した台風21号の強風で流されたタンカーが関西国際空港の連絡橋に衝突し、橋の一部が大きく損傷したことで通行不能となり、関西国際空港が孤立する災害が発生しました。当社は9月5日に応急復旧の要請を受け、翌6日早朝に工事を開始、7日早朝には対面通行での緊急的な応急復旧を完了しました。その後、同月8日から18日早朝までの追加工事で応急復旧を完了させました。

災害の復旧工事では厳しい作業環境のもとで卓越した技能が求められます。また、迅速に作業体制を整え駆けつける協力会社の力が無ければ早期の復旧工事は不可能です。感謝の意を込めて11月29日、大阪支店にて災害復旧工事に尽力した協力会社に感謝状を贈る式典を執り行いました。協力会社からは「各社が一丸となり復旧作業にあたり無事完了させることができ、建設業の社会的使命を実感した」という声が寄せられました。



料金所通路拡幅工事 完了状況



感謝状授与式(大阪支店)

◎ 「平成30年7月豪雨」災害における 応急対策活動

2018年6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に各地に甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」で被災した岡山県倉敷市真備町、広島県安芸郡坂町、愛媛県南予地方の各地域で災害復旧工事にあたりました。



真備町での
災害復旧業務

◎ 「地域に雇用を生み再びにぎわいを」 福島県双葉町の復興

東京電力福島第一原発事故で帰宅困難区域に指定された福島県双葉町において、地元企業の双葉住コン株式会社と共同企業体を結成し、2019年夏の操業開始を目標に、双葉町でアスファルト製造工場および中間処理工場を建設しています。

復興の基盤である道路の原材料をつくりながら、地域の雇用を生み、将来、まちのにぎわいを取り戻すことは、地域社会に貢献できる重要な事業と位置付けています。2018年11月24日には、安倍首相が現地を訪問され、双葉町の地区復興産業拠点に進出する当社を含めた企業関係者と意見交換が行われました。当社は進出に至る経緯や復興にかける思いを説明し、安



倍首相からは「安心して地域に戻るためには生業の復興が極めて重要。期待したい」との言葉をいただきました。



(左から)安倍首相、双葉住コン株式会社 川中取締役、当社社長 福本
出典：首相官邸ホームページ



完成予想図

次世代育成

◎子どもたちに道路建設の大切さを伝える出前講座

2018年12月13日に国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所の主催で、岡山県備前市伊部小学校の5年生を対象に出前講座が行われました。同事務所管内の国道2号線の維持管理を担当している当社岡山営業所職員が道路の維持管理について講義を行い、質疑応答の後は児童たちに校庭で高所作業車の試乗やそのほか建設機械の見学・試乗、施工管理に使用している調査用ドローンの操作体験をしてもらいました。



講義中の当社職員



高所作業車の試乗体験



地上12メートルの高さを体験

◎学生の本質を突いた質問が、職員の刺激に

学生を対象に工事現場、アスファルト合材工場の見学およびインターンシップ(就労体験)を実施することで、より深く建設業の仕事に触れてもらう取り組みを行っています。実際の現場を見学することで職業選択の視野が広がり、建設業が重要な社会的役割を担っていることが実感できます。新たな学びと気づきが生まれた学生からは本質を突いた質問が多く、それにより当社職員にも新たな気づき生まれ、双方にとって貴重な体験となっています。

またインターンシップでは当社職員だけではなく、協力会社の職員とも対話をしてもらうことで仲間意識を持ち、チームとして現場をつくり上げていく過程に携わることで、参加者には仕事の内容だけでなく、コミュニケーションの大切さを学んでもらいます。



現場見学

●2017年度の実績

	現場見学	インターンシップ	合計
回数(回)	27	11	38
参加人数(名)	96	12	108